

CAPD 外来において臨床工学技士と業務連携を開始した 1 年間の取り組み報告

廣川牧子¹⁾、高橋由実¹⁾、鈴木はるみ¹⁾、小坂邦江¹⁾、若山功治²⁾、塚田三佐緒³⁾、土谷健⁴⁾、
新田孝作⁴⁾、秋葉隆³⁾、

東京女子医科大学病院 看護部¹⁾、臨床工学部²⁾、血液浄化療法科³⁾、第 4 内科⁴⁾、

【はじめに】CAPD (continuous ambulatory peritoneal dialysis,以下 CAPD) 外来は医師・看護師のみの診療で繁忙であった。透析室内の業務を検討し、2014 年 10 月より血液透析と同様に CAPD 外来において臨床工学技士 (以下 CE) と業務連携を開始した。

【目的】CAPD 外来で CE と連携し、取り組んだ内容から今後の課題を明確にする。

【方法】期間：2014 年 10 月～2015 年 10 月、対象：A 病院 CAPD 外来担当 (医師・看護師・CE)。CE との連携に伴い取り組んだ CE 教育と業務改善の内容を振り返る。

【倫理的配慮】診療科と看護部の承認を得て個人が特定されないよう配慮を行った。

【結果】CE6 名の教育を CAPD 技術チェックリストを作成し行った。CE と 6 項目 (問診票、防災、業務マニュアル、電話対応、スケジュール管理、環境整備) の係活動を通して業務改善に取り組んだ。CE がチューブ交換・バック交換・体組成計等の測定検査を担う事で、看護師が患者ケアや指導に目をむけられるようになった。

【考察】CE と業務連携ができ、看護師の業務負担が軽減した。今後は、看護師の患者ケアや指導を充実させるための看護業務の見直しが必要と考える。

【まとめ】CE との連携により、CAPD 外来業務が改善した。今後の課題は、各職種の役割を活かした専門性の追求である。